

職務に忠実なる中
年軍人が
島若務ら
かき脱者
ら医者と
共なるに
話荷物
整理して

総員、乗艦セヨ。

脚本 ビリー・ケン

登場人物

風見長閑（43）：襲国軍、海軍大尉。

若菜直（20）：襲国軍、軍医少尉。

礮岩哲也（54）：襲国軍、海軍中佐。

一森剛（38）：襲国軍、海軍曹長。

仁林：同右

三木：同右

鈴木：同右

○ 港、夜

簡素な泊地。岸壁を波が洗う。魚雷艇の前方で海兵が敬礼を交わす。風見長閑

大尉（43）は鈴木曹長を見つめる。敵艦を沈めて見せます。見事、

○ 司令部、翌朝、0900時

石造りの平屋の建物。木製の表札に“襲内軍第54駆逐隊司令部”の文字がある。

壁面に暗号通信機が置かれていた。風見、肘掛椅子に座る司令官、礮

哲也佐戦は成功裡に直立ち敬禮。礮岩だ。今後も犠牲も多くあります。魚雷艇4隻が失われ、温存している。支障が

風見、要官の逐艦も激しく作戦に支障が

礮岩、そのような指令は受けていない。我々の勇猛さで海域に圧力を加え、鬼畜のボット軍に出血を強いる。小兵で大果を挙げ、荒武者の常だ。

風見、君の判断は不要だ。死守が我々に下

礮岩、通信機に向かい紙を取って読む。ベルが鳴り、通信文が吐き出される。相対的に突出しているらしい。防衛線が

が下った。君が準備を指揮しろ。進行命令

風見 敬礼するはっ

○司令部前、野外

風見 砂地の道の上。風見、部下の一森（3
8）、仁林、三木、各曹長を招集する。3
業を行おうことを、我が責任に置いて命
業を進め、各員は小隊長として現場で作
4人、敬礼をして港に向かう。若菜、食
道中、一森が木陰でひっそりと、

入るよう（20）に書物を読む。軍医、若菜直少尉
尉（20）を見つめる。書物を後ろ手に隠
若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

若菜、跳び上がる。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠
し、菜が直立敬礼。書物を後ろ手に隠

○港

若菜 風見

三木 風見

若菜 風見

若菜

○港、

風見

風見、若菜を連れて波止場に腰掛ける。

「宿舎に帰って行く。そろぞろ

1700時

「担いで司令部へ」とこ駆けて行く。

「せん。司令部に支持を仰ぎに行きます」

「大尉！軍旗はどうすべきですか！」

「今のも大事ですか？」

「三木曹長は猫伍長の飼育を引き続

「三木がやってくる。敬礼。」

「よ。指揮系統の徹底、命令を下し、遵

「け。ないんですか？子供みたいですよ」

「仁林、三木でも似た件。繰り返す。

「先で分隊長に指示をしている。」

「互いに敬礼。一森、踵を返して行く。」

「仰ぐ。風見、指さして集積場所を指示を

「指揮所で全体を見ている。」

「風見と若菜は簡素な机で拵えた臨時

「作業を行う。風見中隊の面々。」

「人や機械が活発に動いている。」

「作業者が行う風見中隊の面々。」

を積み込む。若菜、一森に浮きを渡す。	夕日が差し込む港。木造船隊を改造し	1830時	敬礼する。	「それはい。この祈れ」	「音感地、新式機雷が高価なはずだ。配備さ	「柵を引き、回収する。古典だ」	「磁気感知、水中探知器がありません」	「の必要がある。下部にやらせろ」	「らしき間が悪。撤退には機雷除去	「で、昨夜の作戦の本筋はこれだ」	「機上部品が置かれていた。：」	○指令室	「風見菜」	「風見、浮遊物に気付く。海に飛び込む。	「死んでいく。彼らを差し置き、私	「変わらな。彼らも私たちと	「戦いは：戦時広告でしよう」	「女の子も容赦なし、鬼畜カボット軍と	「私の絵はもう人を喜ばす絵じゃない	「若菜、察して言葉を失う。	「者達。元、ですが」
--------------------	-------------------	-------	-------	-------------	----------------------	-----------------	--------------------	------------------	------------------	------------------	-----------------	------	-------	---------------------	------------------	---------------	----------------	--------------------	-------------------	---------------	------------

風見 一 森 見
「我が責任において、の命令です」
「風見大尉：」
「尉官が部下を見捨てて死ぬわけに
はいきません。私は必ず戻ります」
風見、森、敬礼を交わす。

○ 司令室 2100

風見 磯岩 見
「直立敬礼の腕からピッと水が飛び込む。
の軍服に染みを作る。無事完了しました」
「掃海任務、無事完了しました」
「結構撤退作戦は失敗します。大規
模に攻勢、付随する閉塞戦。敵は明ら
かに近く、伏す所です。刈り取られるでし
よう。降伏すべきです」

風見 磯岩 見
「荒武者らしからぬ意見だ。臆病者め」
「無意味に死ぬわけにはいきません」
「次の戦場があるのだ。本部は収容作
戦を行おうと言っている。心配はいらん」
「：ならば、希望者だけ島に残る自由
を下さい」
「抗命に敵前逃亡か。面白い。だが許
可しよ。臆病者は荒武者に不要だ。」
カ軍に擲り殺されるがいい」

○ 翌日の朝、港

風見 一 森 見
「駆逐艦が行く。駆逐隊旗が水平線に消
え。爆薬で特大火柱が水平線に上がる。
料壁で眺める風見中隊。
「岸壁で眺める風見中隊。
「援護がある」と聞いてましたか？」
「栄光の荒武者隊も、大局上は駆逐艦
と魚雷艇の木っ端部隊にすぎない。そ
ういふことだったのですよ：」

若菜 見
「昨日は言い過ぎました。すいません」
「おかげであの船に乗らずに済まない」
「

一 森 降伏は、上手く行きませうか？

「わかりにませんが、備えませう？」

× × ×

若 菜 上陸してくるカ軍。風見、一森、敷布製の白旗を掲げる。

「（カ語で）我々は降伏する。条約に

○ カボット国、捕虜収容所。談話室

襲国軍捕虜、管理するカ軍兵が混ざつ

て談笑している。

風見、カ軍兵の似顔絵を描いて渡す。

カ軍兵が何やら言う。

「良い出来だ。妻に送る。ありがとう。

だ、そうです。」

風 見 「喜んで貰えて幸いです、と伝え下さい」

若 菜 、 通 訳 。 カ 軍 兵 は 笑 顔 で 去 っ て 行

き、次の兵が来る。

風 見 、 ま た 似 顔 絵 を 描 く 。